

総説 高齢者のための形成外科—加齢で生じる眼瞼（まぶた）の疾患—

日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科 村上正洋

加齢で生じる代表的な眼瞼疾患は3つあります。

そのうち上眼瞼に生じるものは、眼瞼が挙がらず目が細くなる眼瞼下垂症（図1）と、余った皮膚が瞼縁を超えて瞳孔（黒目の中心）まで垂れ下がる皮膚弛緩症（図2）の2つです。ともに上方が見にくいため、顎や眉毛を挙げて物を見るようになり、それが頭痛や肩こりの原因になると言われています。両者とも加齢現象ですので、すべての人に多少なりとも生じますが、それが日常生活の支障になるまで進めば健康保険が適応されます。

一方、下眼瞼には逆さ睫毛の一種である眼瞼内反症（図3）がしばしば生じます。これは、加齢により眼瞼を構成する組織が弛緩すると、下眼瞼を正常な位置に保つことができなくなり、睫毛ごと内側（眼球側）に倒れこむため生じると言われています。外側に倒れることで生じる下眼瞼外反症は欧米人によく見られますが日本人にはまれであり、理由ははっきりしませんが人種差のある疾患です。

主な症状は、睫毛が眼球に接するための異物感ですが、角膜（黒目）に傷が生じるようですと治療が強く勧められます。上記3疾患の根本的な治療法は手術になります。

ただし、局所麻酔で片側30分程度ですので、大きな負担になるものではありません。症状があれば、ぜひとも専門医療機関を受診し、治療を受けてください。

図1 眼瞼下垂症

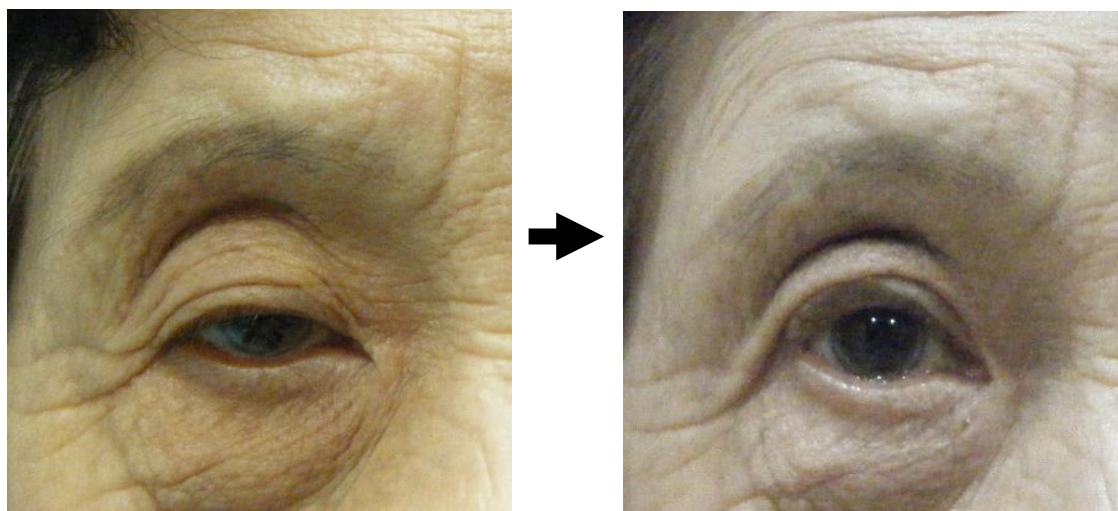


图2 皮膚弛緩症



图3 眼瞼内反症

